1　主題構成表

主題名「誰に対しても親切にする」（小学校第５学年）　　資料名「夏の日のこと」

■　内容項目２－（２）

だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。

■　内容項目から見た生徒の実態

（意識）

・困っている人がいたら親切にしようとする意識はある。
・時と場合によって、あるいは、相手によっては親切を行動に移すことができたり、できなかったりするといった一面がある。

（要因）

・自分との関わりの深さや、周囲の目を気にしてしまうため、いつでもだれに対しても親切にできない場合がある。
・困っている人には親切にすべきであることは理解しているが、そうすることのよさを実感する経験が少ない。

■　価値の分析

・人は、他人との関わりの中で生活している。相手の気持ちに共感し、相手の立場に立って行動することでお互いを尊重し合うことができるようになる。
・困っている人がいればだれであろうと親切にし、助け合っていくことで、人の役に立つ喜びを感じたり、自分が困っているときに助けてもらうことで、今度は相手に対しても親切にしようとする気持ちが生まれたりしてくる。
・高学年になるこの時期は、特に相手の立場に立ち、相手のことを考えた言動について深く考えさせたい。また、人間関係の深さの違いや、意見の相違などを乗り越え、だれに対しても思いやりの心と、それが伴った親切な行為をすることが大切であり、すばらしいことであることに気付かせたい。

■　資料の分析

・ごみ収集車で家庭から出るごみを回収する仕事をしている主人公が、自分が受けた親切を通して、相手の立場に立って行動することのすばらしさを実感する資料である。
・ごみを回収していた主人公は、破れたごみ袋から出てきた大量のみそを頭からかぶってしまう。怒りが収まらないで、ごみ袋を地面にたたきつけてしまう主人公の気持ちに共感することができる。
・頑固で有名なおやじさんの行為を通して、困っているときに親切にしてもらった主人公の心情に共感することができる。
・帰りの収集車に乗り込んでいく主人公の気持ちを考えることを通して、相手のことを気遣い思いやる行動が、相手を心地よくすることに気付かせることができる。

■　ねらい

困っている人の立場に立ち、その人のことを考えて親切にすることで、相手がすがすがしい気持ちになることに気付き、だれに対しても思いやりの気持ちをもち、進んで相手に親切にしようとする心情を育てる。

■　展開の構想

・頭から大量のみそをかぶり、怒りが収まらずにごみ袋を地面にたたきつける主人公の気持ちに共感させる。

・おやじさんの行為にとまどいながらも、おやじさんの優しさを実感し、感謝の気持ちを抱くようになっていく主人公の気持ちに共感させる。

・周りの人に親切にしてもらった心地よさを感じだれに対しても親切にすることの大切さを実感している主人公の気持ちに共感させる。

・だれに対しても親切にしたり、親しい人以外から親切にされたりした経験を振り返る。

■　基本発問（◎中心発問）

○ごみ袋を地面にたたきつけたとき、「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。

◎頑固なおやじさんからタオルをかけてもらったとき、「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。

○走り出した収集車の中で、「わたし」はどんなことを考えていたでしょう。

○家族や友達以外の人に親切にしたり、してもらったりして、心地よい気持ちになった経験はありませんか。

２　学習指導過程

	基本発問と予想される生徒の反応	指　導・援　助
導入	◇資料への興味を高める。 ・これまで、だれかに親切にしたり、だれかから親切にされたりすることがありましたか。	・本時の価値に関わるアンケートを提示する。 ・親切にしたり、親切にされたりする相手には、家族や友人が多いことに気付かせる。
展開前段	◇資料提示（教師の読み聞かせ）をする。 **〇感想を交流する。** ・大量のみそが頭からかかったら腹が立つ。 ・おやじさんは優しい人だと思った。 **〇ごみ袋を地面にたたきつけたとき、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょう。** ・何でこんなものが捨ててあるんだ。 ・だれが捨てたんだ、腹が立つ。 ・汗だくでやっているのに、どうしてこんな目にあわなければいけないんだ。 **◎頑固なおやじさんからタオルをかけてもらったとき、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょう。** ・怒られるかと思っていたので驚いた。 ・どうしてこんなに親切にしてくれるのだろうか。 ・自分がやったわけでもないのになぜ謝るんだろう。 ・このままでは仕事ができないのでありがたい。 ・見ず知らずの自分にそこまでしてくれてうれしい。 **【深めの発問】** **「わたし」には、おやじさんのどんな気持ちが伝わってきたのかな。** ・困っているので何とかしてあげたい。 ・だれかが出したごみで迷惑をかけてしまった。 ・気持ちよく仕事をしてもらいたい。 ・自分のせいではないけど、困っているわたしをこのままにはしておけない。 **〇走り出した収集車の中で、「わたし」はどんなことを考えていたのでしょう。** ・おやじさんの親切な気持ちがうれしかった。 ・今日は気持ちよく仕事が終われそうだ。これからもがんばって仕事をしよう。 ・困った時に、親切にしてもらえると気持ちがいいな。 ・自分も困っている人がいたら親切にしたい。	・登場人物の確認をし、「わたし」の気持ちを中心に考えることをおさえる。 ・どの場面に着目したかをつかみ、発問につなげる。 ・だれにも怒りをぶつけることができず、ごみ袋をたたきつけている「わたし」の気持ちや、赤ちゃんを抱いた女性が驚いているにも関わらず、怒りが収まらない「わたし」の気持ちに共感させる。 ・おやじさんの行為に戸惑いながらも、その親切な気持ちに心が動く主人公の心情に気付かせる。 ・おやじさんの気持ちを考えさせることで、だれに対しても相手の立場に立って行動することの素晴らしさを理解させる。 ・「ごみを出した人でもないおやじさんに謝られても、うれしくないのではないか」と問いかけ、困っている人の立場に立って行動することが、相手を心地よい気持ちにさせていることに気付かせる。 ・おやじさんの親切な気持ちが「わたし」を心地よい気持ちにさせていることに気付かせる。 **●言語活動の充実** おやじさんの気持ちについて話合うことを通して、多様な感じ方や考え方に接し、異なる意見を価値付けたり、他の児童にどう思うか問いかけたりして、価値についての感じ方や考え方を深める。
展開後段	**〇家族や友達以外の人に親切にしたり、してもらったりして、心地よい気持ちになった経験はありませんか。** ・重い荷物をもっていたおばあさんがいたとき、知らない人だったけど声をかけ、運ぶのを手伝うことができた。あとでおばあさんが「ありがとう」と言ってくれて自分もうれしくなった。	・「だれに対しても親切にする」ことについて、これまでの自分の経験や考えを振り返る。 ・仲間の経験や思いを聞かせることで、今後の自分の生き方を見つめさせる。
終末	◇「私たちの道徳」の「思いやりの心があるから共に生きられる」（P60・61）を読む。	・だれに対しても思いやりの心をもって親切にすることの大切さを意味付ける。

３　道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

＜場の内容・ねらい＞

＜学級活動＞
「学級目標を考える」
・相手の立場を考えた言動が、自分たちの学級をよりよくすることをみんなで共通理解し、学級目標を考える。

＜宿泊研修＞
・仲間と共に行動する中で、仲間のよさを再認識する。
・相手の立場に立った言動が、だれにとっても気持ちよく活動することにつながることを実感することができる。

道徳の時間（９月）
「夏の日のこと」
内容項目２－（２）
・相手のことを考えて行動すると、お互いに気持ちがよくなることに気付き、だれに対しても思いやりに気持ちを持ち、進んで相手に親切にしようとする心情を育てる。

＜総合的な学習の時間＞
「福祉施設との交流会」
・地域のお年寄りの方との交流を通して、相手の立場に立って行動することの大切さを実感することができる。

【日常の活動】
＜登校時＞
・低学年の歩く速さに合わせたり、声をかけたりしながら気持よく登校することができる。

＜朝の会＞
「１日の目標づくり」
・お互いが気持ちよく生活できるように、仲間のことを考えて生活することを確認する。

＜給　食＞
・重い食器を運ぶ仲間に協力したり、こぼして困っている仲間に手を差し伸べたりしながら、みんなが楽しい給食の時間にする。

＜係活動＞
・仲間のことを考えて呼びかけたり、仲間の気持ちを考えて行動したりすることができる。

＜帰りの会＞
「かがやきみつけ」
・今日見付けた仲間の温かい言葉や行為について認め合う。

＜児童の意識＞

・お互いのことを大切にし、だれとでも支え合いながら温かさがあふれる学級にしていきたい。

・仲間のことを考えて進んで行動できるかな。
・自分が困っているときにみんなが声をかけてくれてうれしかった。今度は、自分が声をかけられるようになりたい。

・思いやりのある行動は相手だけでなく、自分も気持ちがよくなるんだ。
・仲のよい友達だけではなく、だれに対しても親切にすることができるようになりたい。

・初めて会う人たちと、うまく交流できるかな。
・お年寄りの方から「ありがとう」とお礼を言われて、自分もうれしい気持ちになった。

＜指導・援助＞

・だれもが安心して気持ちよく生活ができる学級にするために、相手の立場に立って考え、行動できるようにする。

・１日の振り返りの時間に、研修の中で感じた思いやりの気持ちを伝え合う場を設ける。
・学級生活の中で児童の具体的な言動を紹介し、仲間を気遣う気持ちを行動に移すことのすばらしさを実感できるようにする。

・困っている時には、だれに対しても親切にすることのよさを実感させる。
・日常活動の中でつかんでいる児童のよさを価値付ける。

・福祉施設訪問での意識から、お年寄りの方の立場や気持ちを考えて行動することが相手を大切にすることになることを理解できるようにする。
・施設の方から「思いやり」について話を聞く。

夏の日のこと

わたしは、ごみ収集車に乗って、家庭から出るごみを回収する仕事をしている。毎日、ごみを出した人の心を感じながら仕事をしている。たとえば「割れたガラスです。」ごみぶくろにこんなメッセージが付いていることがある。そのごみを出した人の優しさが伝わってきて心がなごむ。でも、ときには、ガラスと知らずにつかんで手を切ったり、竹のくしが手にささったり・・・。だから、真夏でも、手を保護する厚い手ぶくろをしながらの回収作業となる。そんな残念なことにもすっかり慣れてしまったある夏の日のことだった。

連日の猛暑で、ごみのにおいはますますきつくなる。むれるゴム手ぶくろは外せない。つらい仕事である。照りつける太陽の中、汗だくで、ごみぶくろを収集車に入れるときのことだった。何とも重かったふくろが突然に破れ、中から大量の液体に近いみそが飛び散った。わたしは、頭からそのみそをかぶってしまった。かみの毛から顔にみそがたれ、目に入る。シャツもズボンもみそだらけになった。

「くっ、ふざけるなよ。」

あまりのことに思わずそう大声で怒鳴りながら、もう片方でつかんでいたごみぶくろを地面にたたきつけた。赤ちゃんをだいて立っていたお母さんが、びっくりしてわたしを見ていた。それでも、どうしてよいかわからず、いかりにふるえながらただ立ちすくんだ。

「おい。」

後ろから低い声で呼ばれふり向くと、がんこで有名な職人のおやじさんがこわい顔で近寄ってきた（最悪だ。）そう思った。

「うちへ、こい。」

おやじさんは、たしかにそう言ったが、わたしはよく意味が分からなかった。

とまどうわたしに、力強く手まねきしている。言われるがままについていった。おやじさんは、みそだらけのわたしを自分の家にあげ、ふろ場へ案内した。わたしは、

「すみません・・・。」

と言いながらシャワーを借りた。ふろのとびらを開けると、目の前にきれいなシャツとズボンが置いてあった。仕事仲間が待っているので、あわてて、収集車にもどろうとすると、

「おいっ、にいちゃん、だれが出したごみだか分からないが、本当に悪かったな。おれが、みんなによく言っておくからよ。」

おやじさんは、そう言いながら真新しい白いタオルをわたしの首にかけてくれた。

収集車にもどると仕事仲間とさっきのお母さんがそうじをして、みそを水で流し終わったところだった。

「すみませんでした。」

わたしは、お母さんにあやまって、頭を下げた。お母さんは、

「いいえ、大変だったわね。これからも、よろしくお願いしますね。」

そう言って、よく冷えたお茶をくれた。

「ありがとうございました。」

おやじさんとお母さんに、わたしは、心からの笑顔でそう言ってくれた。

収集車は走り出した。

いつもうるさく感じるせみの鳴き声が、今日は心地よく後ろに流れていく。

いつまでも忘(わす)れることのできない夏の日のこと。

内容項目　二―（二）

出典　小学校道徳　読み物資料

（平成二十三年三月　文部科学省）